



第19回岐阜シンポジウム

「岐阜から生物多様性を考える」



岐阜大学

日時 平成22年11月6日(土)10:00~12:30 (岐大祭開催中) 場所 岐阜大学講堂



第19回岐阜シンポジウム 「岐阜から生物多様性を考える」



日時 平成22年11月6日(土) 開演10:00 (受付開始9:30) 「岐大祭同時開催」

場所 岐阜大学講堂 (収容400席) 岐阜市柳戸1-1 (岐阜大学図書館1F)

内容 基調講演
湯本 貴和 教授(総合地球環境学研究所)
「生物多様性はなぜ大切か ―熱帯雨林から日々の食卓まで―」

2010年は、国連が提唱する国際生物多様性年です。10月には名古屋で生物多様性条約締結国会議(COP10)が開催されました。地球環境問題の中で、地球温暖化問題と生物多様性喪失問題については2大テーマです。しかし、地球温暖化に比べて、生物多様性喪失問題については、市民の関心は極めて低調です。それは問題がトキやコウノトリのような希少生物の保護だと誤解されてきたこと、あるいはわたしたちの日常生活に及ぼす影響がわかりにくいことなどに原因があります。でも、わたしたちの生活は、生物なしでは成り立ちません。私たちが暮らしていくための食べ物だけでなく、空気や水、温度環境などはすべて生物活動の産物なのです。化学燃料でさえも、過去の生物活動の遺産です。身の回りの当たり前なものにこそ、生物多様性の大切さがあります。

一般講演
小見山 章 教授(岐阜大学応用生物科学部)
―森林に関する話題提供―

岐阜県は森の国です。森に覆われる山とそこに流れる川が、豊かな自然を形作っています。変化に富む地形を反映して、森林植生は、標高が低い側から、照葉樹林―落葉広葉樹林―亜高山帯林―高山帯植生と姿を変えています。一方、人間の行為は、森林の姿に大きな影響を与えています。スギやヒノキなど人工林は、岐阜県の面積のおよそ40%を占めています。また、「二次林」の面積は50%を超えています。原生林に近い状態の森林の面積は5%以下にすぎません。このように、岐阜県の森林のほとんどは、人間の影響を過去に受けたものです。生物多様性は、人の暮らしとともに変化しています。

鈴木 正嗣 教授(岐阜大学応用生物科学部)
―動物に関する話題提供―

生物多様性条約は、①地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること、②生物資源を持続可能であるように利用すること、③遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること、の3点を目的としています。すなわち、この条約は「野生生物を自然資源と位置付け、それを利活用すること」を視野に入れた取り決め・合意でもあるわけです。もちろん、過剰な利活用は生息環境の破壊や種の絶滅などのリスクを高めます。しかし、自然資源としての野生生物が生み出す利益(経済的有用性)を明確化することで、その保全に対する「動機付け」を強化することができるのも事実です。いま私たちは、従来型の「手つかずで残す保護」から「持続的な利活用を目指す保全」へと、大きな発想転換を迫られているのです。

主催 岐阜大学 応用生物科学部

共催 岐阜県地域農林業教育システム

後援 岐阜県、岐阜市、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会

入場無料・申込不要

(ただし、団体での参加の場合はご連絡願います)

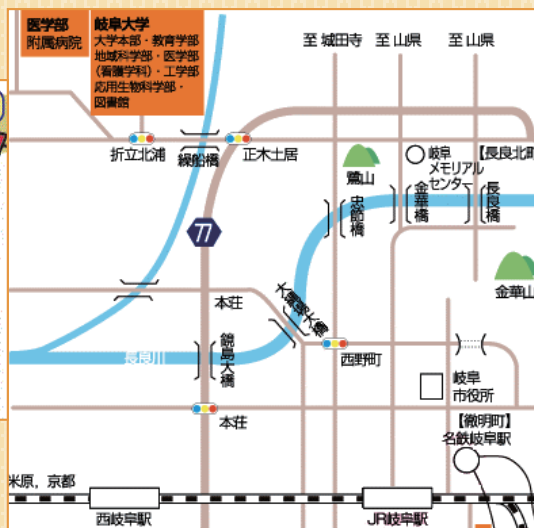
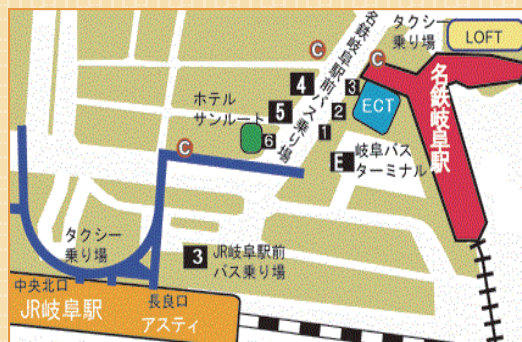
アクセスマップ

〇バスでお越しの方

(岐阜大学・岐阜大学病院行き)
JR岐阜駅(北口)バスロータリー3番のりば
名鉄岐阜駅4番もしくは5番のりば

〇お車でお越しの方

岐大祭期間中の土曜日及び日曜日は、
岐阜大学構内の駐車場を一般開放しておりますので、直接大学までお越し下さい。



問い合わせ

岐阜大学 学術国際部 研究支援課
TEL:058-293-2195 FAX:058-293-3209
e-mail:gfsympo@gifu-u.ac.jp

※当日は、岐大祭も開催しております。様々な屋台が出店予定ですので、ぜひお立ち寄りください。
また、午後からは、第二食堂で岐阜大学が誇る最先端の研究発表のパネル展示も開催されますので、併せてご参加ください。

※11月は岐阜大学の環境月間です。



国立大学法人

岐阜大学